

1 研修のテーマ

『知る→実践する→振り返る』のサイクルを通して  
日常授業を改善する

2 校内研修テーマ設定の理由

令和3年1月26日に「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が中央教育審議会より示された。本答申では、急激に変化する時代の中で求められる資質・能力を児童生徒に育成していくために、「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことを求めている。

本校の令和3年度学校経営方針の理念は「児童の変容を生み出せる学校 ～教職員の自己研鑽と協働により課題解決ができる組織～」である。児童が学校生活の中で最も長い時間を費やすのが授業であり、その改善が最も重要である。授業改善のために教職員集団自体が「主体的・対話的で深い研修」をつくり上げていくことにより、児童の変容を生み出すことを目指している。



(図1 令和3年度室蘭市立地球岬小学校 グランドデザイン)

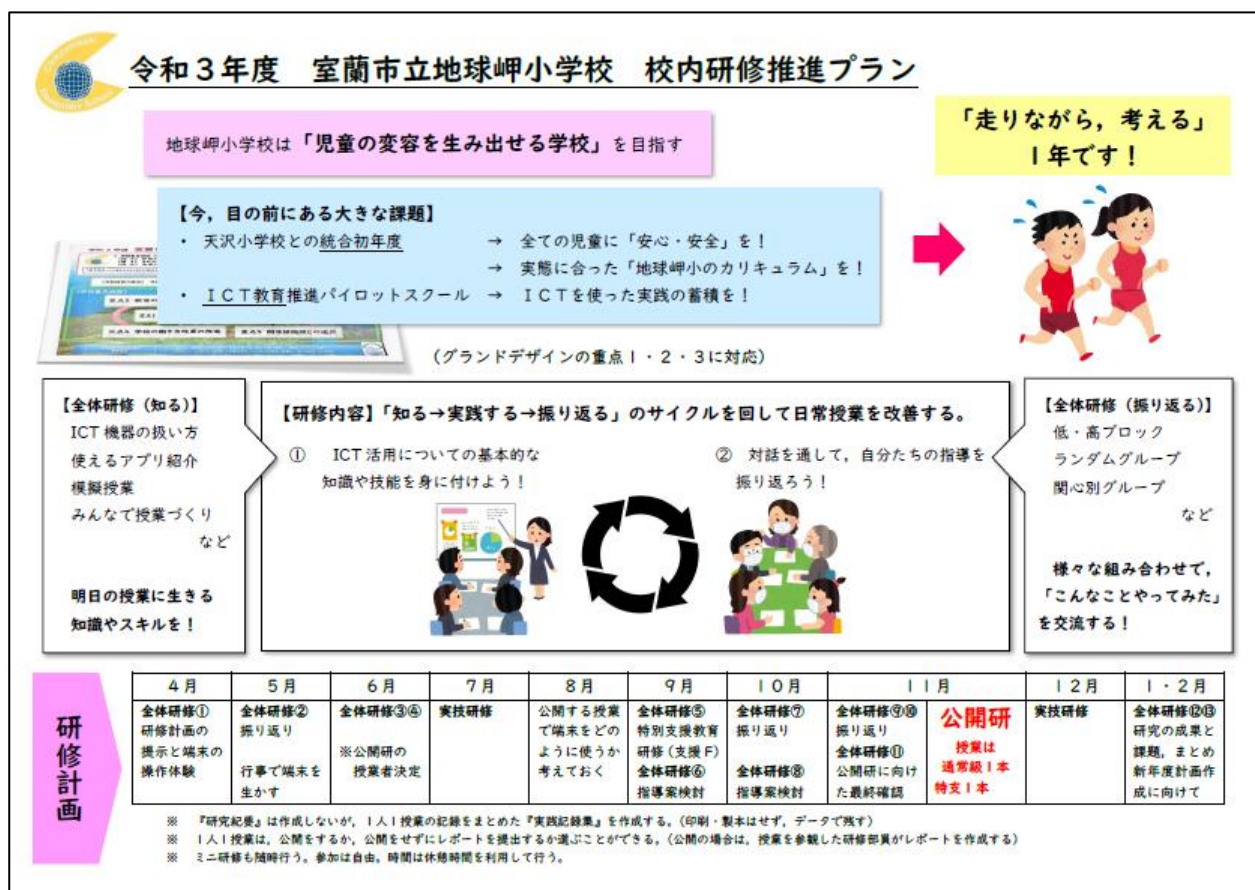
今年度は本校にとって、2つの大きな課題があり、その解決のための取組が必要である。

1つめの課題は、地球岬小学校と天沢小学校の統合初年度を迎えたことである。全ての児童が「安心・安全」に学校生活を送ることができるようにすること、児童の実態に合わせた「地

球岬小の「カリキュラム」を編成・改善していくことが急務である。

2つめの課題は、今年度が一人一台端末導入初年度を迎えたことである。これからの時代を生きる子供たちにとって、情報端末を適切に活用する力はなくてはならないものであり、早期から導入する必要があると考えた。

これらの現状を踏まえ、今年度の校内研修は「理論を構築し、検証する」ような進め方ではなく、「実践しながら振り返り、必要なことを確認していく」というスタイルを進めることとした。この1年間の実践を通して、解決すべき課題を明らかとし、次年度以降の研修につなげていきたい。



(図2 令和3年度 室蘭市立地球岬小学校 校内研修推進プラン)

### 3 校内研修の内容

#### (1) 知る→実践する→振り返るのサイクルをつくる

校内研修では、「知る」「実践する」「振り返る」の3つのパーツを意識して計画を立てている。

「知る」は、chromebook の活用方法について具体的に知り、各種アプリ操作などができるようになるための時間である。「実践する」は、日常授業の中でchromebookを活用していく時間である。「振り返る」は、実践段階でうまくいったこと、困っていることなどについて出し合い、自らの指導を振り返る時間である。これら3つのパーツを組み合わせ、実践と振り返りのサイクルを回していく。全体で確認が必要なことが出てきた場合には、研究部が中心となって考えをとりまとめている。

## (2) 研修の実際

### ① 知る：chromebook の基本操作（ログイン・ログアウト、アプリの開き方等について）

教職員の ICT の操作スキルには差があり、このような基本的なところからしっかり行っていくことが、安心感にもつながると考える。

### ② 知る：各種アプリの活用方法について

次のアプリの活用方法について、研修を行った。教職員が生徒役となって活用方法を体験した後、教師側の操作方法について説明を行った。

- ・ Google クラスルーム
- ・ Google ドライブ
- ・ Google meet
- ・ Google フォーム
- ・ Jam ボード

### ③ 振り返る：これまでの指導を振り返って

「知る」の段階で身に付けた端末の操作方法を用いて行った授業実践について交流した。交流の中で、次のようなことが出された。

#### ア 有効だった活用法

- ・ 算数教科書の QR コードの活用が有効だった
- ・ インターネットで調べたいことを PC 室に移動せずいつでもできるようになった
- ・ 大型テレビと接続すると発表などで便利
- ・ 友達の日記、感想などを見られるのが良い
- ・ 班の話し合いをジャムボードで行った
- ・ 個人の目標や反省の場面で活用した
- ・ 音読名人をフォームで投票させた
- ・ 理科の観察日記では、手書きのものを写真にとって成長記録をつけた
- ・ 学年が別でも同じものを共有できる（クラブ・委員会での活用）
- ・ 実験、観察したことを各自で写真に残せるようになった
- ・ 個人の興味に応じて調べ学習ができる

#### イ 問題点として挙げられたこと

##### (ア) 健康・体力面の問題点

- ・ 端末をいじっていて外で遊ばない児童が増えた
- ・ 休み時間ずっとやっている子が目立つなど、どこまでを認めるか線引きが難しい
- ・ 視力低下など健康への影響

##### (イ) 授業での問題点

- ・ 端末を使って満足してしまい、目標まで到達しない
- ・ 端末の止め時が守れない児童もいる
- ・ 授業に関係ないサイトを閲覧している児童がおり、構造上担任から確認するのが難しい



(ウ) 入力スピードの個人差

- ・ 文字入力 of 技術に差があり、端末を学習に生かすときのネックになっている
- ・ 検索のときに手書きなどでうまくいかず困っている

(エ) アナログの活動の減少

- ・ 字を書く機会は減る
- ・ 隙間時間に読書をしなくなった

④ 振り返りを受けて

振り返りで出されたことをもとに、全校で共通して取り組んでいくことを2点確認した。

1点目は、キーボード入力の技能を高めていけるように、練習の時間を保障したり、意欲が持続するように積極的にほめたりする指導を行うことである。本校では「キーボー島アドベンチャー」のアカウントを見童全員分取得しており、隙間時間等に取り組ませることを確認した。

2点目は「端末を道具として使いこなすために各教科等で<いつ・何を>指導するのか」を明らかにし、計画的に指導を行っていくことである。下図3に示すように、各学年で「情報活用能力」と関わりの深い内容を洗い出し、確実に指導することを確認した。なお、下図3はプロトタイプであり、今後指導を進めていく中で加筆修正していく。

児童に<情報活用能力>を育てるために、大切にしたい内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
道徳	<p>情報と向き合う</p> <p>P132 きまりをまもらないと ・ 公共の場所にはルールがある ・ 公共の場所や物を使うときに、他の利用者も快適に使えるようにすることが大切</p>	<p>P24 友だちが作ったものは ・ 友達が書いたり作ったりしたものでよいと思ったものをまねるときは、きちんと伝えることが大切</p>	<p>P22 インターネットにおちゅう ・ インターネットは便利 ・ ゲームやインターネットに夢中になりすぎないために、約束を決め、守ることが大切</p>	<p>P96 インターネット上のやり取り ・ インターネット上のやり取りで自分の考えや気持ちを相手に正しく受け取れるように伝えることが大切</p>	<p>P22 インターネット上のマナー ・ インターネットの非対面性、匿名性、拡散性を知り、相手の立場に立ったやり取りをすることが大切</p>	<p>P97 インターネット上の権利 ・ インターネット上で侵害されやすいといわれる著作権、肖像権、プライバシー権を侵害しないことが大切</p>
規程の尊重	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。		約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。		法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。	
いじめを許さない	<p>P60 こんなことしてない? ・ 仲良しや好きな友達だけに優しくすることが、周りに嫌な思いをさせることがある</p>	<p>P97 いやな気持ちかもしれないよ ・ 失敗を面白がることや同じ班の仲間に入れないことなどで、嫌な気持ちになる友達がいる</p>	<p>P32 友だちのかかわりについて考えよう ・ 自分がされて嫌なことは人にしない ・ 嫌だと思ったことは、がまんせずに相手に伝える</p>	<p>P49 いじめを見つけたら ・ いじめを見つけたら、できることを考えて行動すること ① いじめている人を注意 ② いじめられている人に寄り添う ③ 信頼できる大人に相談</p>	<p>P46 おたがいを大切にしよう ・ 友達とよりよい関係を築くためには、お互いを大切にすることが必要 ・ 決めつけや一方的な理解でなく、様々な角度から友達のことを見つけてみる大切</p>	<p>P54 いじめにどう向き合うか ・ 加害者、被害者、傍観者それぞれが「どうすればいいの」と考えることが必要 ・ 「いじめ防止対策推進法」について知る</p>
保健			<p>2 けんこうによい1日の生活 ・ 健康な生活のためには、1日の生活リズムを整える必要がある。</p>	<p>3 よりよく成長するための生活 ・ 運動には心拍機能向上、筋力の発達、骨を丈夫にするなどの効果がある ・ 睡眠前にパソコンやゲーム機を見ているとよい睡眠がとりにくいと書かれている</p>	<p>1 心身の発達 ・ 年齢とともに人との関わりは広がっていく ・ 心の状態によって体調が変化することがある</p> <p>2 犯罪被害の防止 ・ インターネットによる犯罪被害が起きている ・ 困ったことがあるときは、家の人や先生に知らせる ※ 自然災害時、デマ情報による被害があることも伝える</p>	<p>3 健康の害と健康 ・ ゲームやインターネットの使用が、依存症の状態になってしまうことがある ・ 依存症の問題点は、その行為を続けたり何回も繰り返したりすることで、生活リズムが乱れたり体調をくずしたりするなど、健康上の悪影響が生じやすいことである</p>
家庭					<p>1 家族の生活 再発見 ・ 家庭には1日の生活の中で様々な仕事がある ・ 家族で協力してこれらの仕事をする事で家族の生活が成り立っている</p>	<p>1 生活時間をマネジメント ・ 自分の1日の過ごし方を調べ課題がないかを考える ・ 毎日を有意義に過ごすためには、生活をマネジメントすることが必要</p>
社会生活・総合		<p>P122 3 しらべよう ・ インターネットは大人といっしょに使う ・ インターネットにはたくさん情報が集まるので、正しい情報が注意する ・ 写真を選ぶときは、映しにくいのがわかる</p> <p>P126 5. 手紙や電話で伝えよう ・ 電話でお問い合わせするときのマナー（話し時間につけない、相手の都合を聞く、間違えたときは慌てずして断りしてから切る） ・ 電子メールでの依頼をすることもできる</p>	<p>P160～ 社会科ガイド ・ インタビューの内容を録音するとき、相手の許可を得る ・ 電話のかけ方 ・ インターネットや電子メールは先生や家の人と一緒に使うようにする ・ 自分の友達の名前、住所、電話番号などの情報は電子メールに書かない ・ インターネットには正しくない情報もあるため、他の情報と比較して確かめることが必要 ・ デジタルカメラで人の顔や建物の中の様子を撮るときは、撮影してもよいかわかる</p>		<p>P29 インターネットに検索する ・ 調べるときを整理して、できるだけ短い言葉を入力する。言葉の間をあける。 ・ 情報の発信元(ウェブサイトを管理している人、団体)を確認し、信用できる情報が注意しながら調べる。 ・ 後で見直せるように、発信元を記録しておく。</p> <p>P170～ 未来とつながる情報 ・ 報道の正確性や中立性 ・ インターネットを利用し視聴者が発信者になる場合がある ・ 正しい情報化を自分でも考えることが大切 ・ 個人情報等、重要な情報が流出することによる被害</p>	<p>P217 聞き取り調査をして記録する ・ インタビューを録音するとき、許可を得る。 ・ 直接体験したことが、伝え聞いたことかを区別する。</p>

(図3 児童に<情報活用能力>を育てるために、大切にしたい内容 (プロトタイプ))

## 4 新しい形での実践公開

### (1) オンライン公開

今年度の実践公開は、オンライン公開とした。研究発表や授業については動画に収録し、YouTube を使って公開した。(URL を知っている人しか閲覧できない「限定公開」の設定で公開するなど、個人情報の扱いについては十分配慮して行った)

オンライン公開という形を選択したのは、次のような理由からである。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、フィジカルに集まる研修は困難
- ・ 公開する側も、参加する側も補欠体制を組まなくてよく、参加しやすい
- ・ 授業動画を編集して公開することにより、焦点を絞った検討ができる

動画編集にはやや時間がかかったが、配信資料を全てデータにしたこと、会場準備などこれまでかけていたコストがかからなかったことなどを考えると、従来の実践公開よりも業務のスリム化を図ることができた。後述するように、外部からのフィードバックも十分に得ることができ、十分な成果を上げることができたと考える。

### (2) 公開内容

#### ① 5年1組 社会『日本の工業生産と貿易・運輸』

日本と世界の国々の貿易の様子を、地図やグラフ等の資料から読み取る学習を行った。資料から読み取ったことを子供たちがアウトプットし、共有するために「jamboard」を活用した。日常から活用しているため、子供たちは操作にも慣れた様子でスムーズに活動を進めることができた。拡散的思考の場面では、とても有効に活用できることを改めて確認できた。収束的思考(まとめの場面)をどのようにデザインしていくかが今後の課題である。



#### ② ひまわり3組 生活単元学習『カレンダーを作ってみよう』

曜日の概念、1週間が7日間であることや1か月が30日であることなどの規則性についての児童が理解できるように学習をデザインした。Google ドキュメントを使ってカレンダーの日付を入力することにより、字を書くことが苦手な児童もねらいに向かって活動できていた。また「自分の好きな画像を入れることができる」という自己選択性を保障することができ、児童の意欲向上にもつながっていた。



### (3) 参加者のフィードバック

参加者からは、動画視聴後、Google フォームでアンケートに回答いただいた。

ここでは、「地球岬小学校の校内研修の進め方」についての回答から主な内容を抜粋する。

- ① 質問1：地球岬小学校の校内研修について、良いと思ったところがありましたら教えてください。
- ・ 職員がアイデアを出しながら進めているところがよい
  - ・ ICTの活用について実践レポートにまとめ、共有する取組が良いと思った
  - ・ 教員のグループ分けが面白いと思った
  - ・ ICTの活用を日ごろから行っていることが児童の様子から伝わってきた
  - ・ ICTを効果的、適切に使用する根拠（学習指導要領）が示されていた
  - ・ 研修の目的がわかりやすい。「知る、実践する、振り返る」
  - ・ 説明動画も大変わかりやすかった。動画時間もちょうどよく、様々工夫されていた
  - ・ 過度な理論研修に一石を投じるものだと思う
  - ・ 日常の授業に活かすための研修は、大切だと思う
  - ・ 無理なく、若手もベテランも協調してやっていけるような内容となっている
  - ・ 「研究のための研究」になっていない。そのようなにおいがしない
- ② 質問2：地球岬小学校の校内研修について、改善したほうがよいと思ったところがありましたら教えてください。
- ・ ICTを活用している際に、ICTを使うことが目的となりすぎているように感じた。他の児童の意見や教師の意見を聞く際は手を止めるや顔を上げるなど両立させるとよい。

## 5 成果と課題

デジタルトランスフォーメーションに至るまでには、次のような段階があると言われている。

デジタイゼーション	アナログ・紙をデジタル化することにより、効率的・効果的にする
デジタルライゼーション	デジタル技術・データ活用によって指導の改善や、最適化を行う
デジタルトランスフォーメーション	学習モデルの構造等が質的に変革し、新たな価値を創出する

今年度の本校の実践は、主に「デジタイゼーション」にあたるものが多かったと考えている。今後は、デジタル技術やデータ活用による「指導の改善・最適化」（デジタルライゼーション）へとさらに踏み込んでいきたい。

また、校内研修で行った「振り返る」の結果や、実践公開のフィードバックからも、端末をより有効に活用するためには児童が「自律」する力を高めていく必要があることが分かる。きまりを守れないから「使わせない・制限する」という考え方に立つのではなく、どうすれば児童が適切に端末を「使いこなす」ことができるようになるのかを、今後も教職員間での対話を密に行いながら、模索していく。